

# 平成 30 年度事業報告

(平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで)

## 1. 庶務関係

(1) **会員数の状況** (平成 31 年 3 月 31 日現在) ( ) 内前年同期増減

ブロック	正会員	学生会員	総数
東北・北海道	113 (-3)	5 (±0)	118 (-3)
関東	475 (-4) 内名誉会員 4 (-2)	48 (-3)	523 (-7)
東海・北陸	146 (+1)	3 (-4)	149 (-3)
近畿	248 (+6) 内名誉会員 2	36 (+1)	284 (+7)
中国・四国	132 (+4)	10 (-4)	142 (±0)
九州	125 (-5)	3 (-3)	128 (-8)
海外	8 (±0)	0 (±0)	8 (±0)
計	1241 (+1)	105 (-13)	1352 (-14)

団体会員 166 団体、賛助会員 51 団体、顧問 3 名

(2) **代議員総会の開催**

平成 30 年 6 月 3 日 (日) お茶の水女子大学にて開催した。

(3) **年次大会の開催**

平成 30 年 8 月 30 日 (木)、31 日 (金) 武庫川女子大学にて開催し、研究発表・事業報告会および学会賞授与式等を行った。

(4) **一般社団法人日本調理科学会創立 50 周年記念出版事業の継続実施**

創立 50 周年記念出版事業として、全国約 350 名の会員が記念出版委員会を中心に、引き続きシリーズ「伝え継ぐ日本の家庭料理」の出版に取り組み、第 3 回～6 回配本分を刊行した。本事業は 2021 年度まで継続し、第 16 回配本まで刊行する予定である。

(5) **研究の奨励及び研究業績等の表彰**

学会賞 1 名、奨励賞 1 名、功労賞 2 名、若手研究者発表奨励賞 3 名の表彰

(6) **会議の開催**

① 理事会	4 回
② 編集委員会	5 回
③ 情報管理委員会	2 回
④ 学会賞選考委員会	2 回
⑤ 刊行委員会	3 回

## 2. 企画・広報関係

(1) 年次大会を中心とした企画・広報を行った。

(2) 6 月 3 日 (日) 講演会を開催し、「腸内細菌と健康」をテーマに辨野義己氏 (理化学研究所イノベーション推進センター特別招聘研究員)、ならびに「お米とごはんの科学」をテーマに貝沼やす子氏 (静岡県立大学名誉教授) の講演を行った。

## 3. 常置委員会関係

(1) **編集委員会 『日本調理科学会誌』の発行** 年 6 回発行 A4 判

第 51 巻 第 2 号 1,750 部、第 3 号 1,750 部、第 4 号 1,750 部、第 5 号 1,750 部、第 6 号 1,750 部  
第 52 巻 第 1 号 1,750 部

編集・刊行

① **論文投稿状況** (平成 30 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日)

報文 24 編、ノート・資料 17 編、教材研究 1 編、トピックス&オピニオン 1 編 計 43 編

② **論文審査状況**

平成 31 年 3 月 31 日現在

区分	掲載済	印刷待ち	著者取り下げ	却下	審査・訂正中	計
28 年度投稿	18	0	6	6	0	30
29 年度投稿	23	1	3	0	1	28
30 年度投稿	7	14	4	7	11	43

### ③学会誌 51 巻 2～6 号および 52 巻 1 号掲載発行状況

区 分	2 号	3 号	4 号	5 号	6 号	1 号	合計
報文	2	3	1	1	2	1	10
ノート・資料	3	1	3	3	3	2	15
総説	0	1	1	1	1	1	5
講座	1	1	1	1	1	1	6
教材研究	1	1	1	1	1	1	6
クッキングルーム	1	1	1	1	1	1	6
トピックス&オピニオン	1	1	1	1	1	1	6
新刊紹介	2	0	0	1	2	2	7
ページ数	68	62	53	55	66	42	346

④学会誌は発行 1 か月以内に電子版を J-STAGE にて公開した。

⑤投稿規程等の見直しを行った。

### (2) 情報管理委員会

① 情報管理委員会を開催し、ホームページ等の管理、運用を行った。

② 平成 30 年度大会演題登録はアトラス社の Confit Submission を利用して行った。  
研究発表要旨を J-STAGE にて公開した。

③メール・ニュースを 5 月 11 日号、7 月 1 日号、8 月 7 日号、8 月 27 日号、11 月 20 日号、1 月 21 日号、1 月 31 日号の 7 回発行した。メール・ニュース用のアドレス更新を 8 月に行った。

④転載許可の申請に対し対応した。また(一社) 学術著作権協会と、これまでの複製利用に加え転載利用についても管理委託契約を交わした。

### 4. 渉外関係

(1) 日本学術会議協力学術団体として生活科学系コンソーシアムの活動を行った。

(2) 下記の関連学協会と事業の共催、協賛、情報交換を行った。

(一社)日本家政学会、日本家庭科教育学会、日本食生活学会、(一社)日本官能評価学会、日本熱物性学会、日本高圧力学会、(公社)日本食品科学工学会、(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団、(公財)塩事業センター、(公財)不二たん白質研究振興財団、(一社)日本レオロジー学会、(特非)うま味インフォメーションセンター、日本食品・機械研究会、日本熱測定学会、(公社)日本冷凍空調学会、(公財)ソルト・サイエンス研究財団、その他の学協会

### 5. 研究委員会関係

(1) **災害時メニュー開発に関する研究委員会**は、平成 30 年度大会において認定 NPO 法人キャンパーとともに大会実行委員会の協力を得て、8 月 31 日(金) 昼食のデモ調理(100 食)を行い、デモ調理時のアンケートをまとめた。また報告会を行い拡大委員の募集を行った。

(2) **次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理研究委員会**は、都道府県別に「主菜」をテーマにして、年次大会において特別企画としてポスター発表した。46 都道府県の研究委員が参加した。また平成 28・29 年度ポスター発表データの収集を行った。今後データを CD 化あるいは DVD 化し研究委員に配布予定である。

### 6. 特別委員会関係

**刊行委員会**は、創立 40 周年記念事業であるクックリーサイエンスシリーズの刊行を継続して行い、8 月に **9 冊目** (「食を支えるキッチングッズ」著者: 肥後温子氏) を発行した。また委員長及び委員を交代した。

### 7. 支部関係